

## 取引に関する注意点

---

### ■ 注文の執行について

#### 1. 当社の採用する取引モデル「No Dealing Desk（NDD）」について

当社は、No Dealing Desk（インターバンク直結方式の取引モデル、以下「NDD」といいます。）を採用しています。

NDDでは、お客様の注文を一件ごとにインターバンクにつなぎ、注文を約定させており、ディーラーが注文執行に関与することはありません。

#### 2. NDDの特徴

これにより、お客様の損失が業者の利益になる図式（利益相反）をなくし、透明性の高い取引環境をお客様に提供しています。具体的には以下の点可以实现できます。

- ① 市場レートを忠実に反映したレート提示
- ② ディーラーの裁量による約定等の恣意性を排した公正な注文執行

一方で、NDDでは、ディーラーがクッションの役割を果たさないため、インターバンク市場の動向がお客様へ直接反映されます。このため、以下のような特徴があります、

- ① 市場の流動性が確保されない場合には約定が困難であったり、不利なレートで約定したりすることがある。
- ② インターバンク市場の動向に依存するため、ディーラーの裁量で約定する方式に比べ、約定までに時間がかかるおそれがある。

#### 3. NDDにおけるレートについて

##### (1) 当社がお客様に提示するレート

NDDでは、市場レートを忠実に反映したレート提示を行っています。具体的には、複数の有力金融機関から供給を受けたいくつものレートを集約し、その中で売値・買値のそれぞれにつき一番有利なレートを採用してお客様へレートを提示しています（お客様へ提示しているレートを「ベスト・ビッド・オファー」といいます。）。

##### (2) 注文執行とベスト・ビッド・オファー

NDDでは、お客様からの注文を、その時点でのベスト・ビッド・オファーで執行します。ただし、金融機関から配信を受けるレートの流動性にも限りがあるため、同じレートで全てのお客様の注文を約定できるとは限りません。

この場合、ベスト・ビッド・オファーに次ぐレートで執行する仕組みをとっています。このため、ベスト・ビッド・オファーと約定レートが異なることがあります。

具体的には注文の種類により異なりますので、各注文の説明をご覧ください。

※ 週初のマーケットオープン時や経済指標発表時、その他政治・経済情勢の影響等で著しく相場が変動した時等、市場の流動性が確保されない場合において、ベスト・ビッド・オファーと約定レートが大きく乖離する場合があります。

※ Market Scope チャートや取引システムFX Trading Station 2.0はベスト・ビッド・オファーを表示しています。そのため、約定レートが、Market Scopeチャートや取引システムFX Trading Station 2.0上に表示されない場合があります。

## ■ 成行注文の執行について

成行注文とは、発注する時点の取引価格での注文のことです。

成行注文を発注する場合には、「ベストアベイラブル」と「マーケットレンジ」の2種類の方式を選択することができます。これらの発注にはそれぞれ以下のような特徴があります。

### 1. ベストアベイラブルについて

- (1) ベストアベイラブルとは、約定レートに制限を設けないで行う成行注文のことです。
- (2) ベストアベイラブルで注文すると、注文レートから相場が動いても執行がキャンセルされないため、急激なレート変動等の場合においても、迅速に約定します。
- (3) ベストアベイラブルは、約定レートに制限を設けないで執行しますので、注文レートと約定レートが大きく乖離する場合があります。特に、経済指標発表時や早朝の時間帯など市場に十分な流動性がない場合には乖離幅が大きく、これにより、不測の損失を被るおそれがありますのでご注意ください。

※ FX Trading Station 2.0では、オーダーの種類初期設定はベストアベイラブルです。

※ MT 4 及びミラートレーダーでの成行注文は、全てベストアベイラブルです。

※ 携帯端末を利用したサービスでの成行注文は、全てベストアベイラブルです。また、画面表示上のレートはあくまで参考レートです。

### 2. マーケットレンジについて

- (1) マーケットレンジとは、あらかじめ注文レートと約定レートのずれの「許容幅」を設定した上で行う成行注文のことです。許容幅は発注する際に設定できます。
- (2) 約定レートが許容幅を超える場合には約定しません。この結果、注文レートと約定レートの乖離による不測の損失を被るおそれなくなります。  
なお、市場に十分な流動性がない場合には一部の注文のみを約定し、残りの注文はキャンセルします。
- (3) マーケットレンジはベストアベイラブルに比べ、約定までの時間が若干遅れます。また、レートの変動が激しい場合には約定しにくいことがあります。

※ マーケットレンジの初期設定値は、「0」に設定しています。

## ■ 指値注文等の執行について

あらかじめレートを指定する注文（指値注文、リミットオーダー、逆指値注文、ストップオーダー）は、提示レートが注文レートに達した時点で、ベストアベイラブル方式の成行注文として執行します。

### (1) 指値注文等執行時の特徴

- ① 指値注文及びリミットオーダー  
注文レート又は注文レートより有利なレートで約定することがあります。
- ② 逆指値注文及びストップオーダー  
注文レート又は注文レートより不利なレートで約定することがあります。

### (2) 週末をはさんで指値注文が執行される場合の注意点

特に、週末をはさんだ指値注文は、翌週の市場オープン直後のレートを基に注文を執行します。このため、週末のクローズ価格から週初のオープン価格の間に乖離が大きい場合には、(1)の場合よりも有利・不利になる幅が大きくなります。

週末をはさんで指値注文等を発注する場合は、特にご注意ください。

### (3) 指値スルーについての注意点

指値注文は、瞬時のレート変動やレートの供給量の不足により指値注文が約定しない場合があります（これを「指値スルー」といいます。）。

インターバンク市場の動向が直接お客様に反映するNDDを採用していることから、指値スルーの発生をゼロとすることは困難です。指値スルーが発生した場合には、補償はいたしかねますのでご了承ください。

## ■ スリッページについて

逆指値注文及びストップオーダーに関しては、注文レートと約定レートにずれ（スリッページ）が発生しお客様に不利なレートで約定する場合があります。

特に、週末のクローズ価格から週初のオープン価格の間に乖離が大きい場合や経済指標発表時又はその他政治・経済情勢の影響等で著しく相場が変動した場合など市場に十分な流動性がない場合には、スリッページが大きくなる場合があります。

これにより不測の損失を被るおそれがありますので、ご注意ください。

## ■ ロスカット取引について

取引証拠金以上の損失を回避するため、余剰金額が0（ゼロ）以下になった時点で、お客様の保有する全てのポジションを強制的に決済する措置を講じています。これをロスカット取引といいます。

ロスカット取引は、ベストアベイラブル方式の成行注文として執行します。このため、市場に十分な流動性がない場合にはスリッページが発生し、取引証拠金以上の損失が発生する場合やロスカット後の取引証拠金がロスカット取引を行う時点の維持証拠金を上回る場合など、不測の損失を被るおそれがあります。

## ■ 両建について

両建取引とは、同一の通貨ペアの売りと買いのポジションを同時に保有することをいいます。

両建取引を行うには両建設定のお申込みをする必要があります（トレーディングステーションの場合。なお、T Sタイトでは、両建設定のお申込みはできません。）。

一方、MT 4及びミラートレーダーは取引の性質上、はじめから両建取引ができます。

### (1) 両建取引の注意点

両建取引は売値と買値の価格差（スプレッド）についてお客様が二重に負担する必要が生じるほか、スワップポイントの支払いと受取の差額を負担する場合があるなどのデメリットがあり、経済的合理性を欠くおそれがありますのでご注意ください。

### (2) 両建取引時の損益

両建取引を行うと損益が固定されると一般にはいわれています。しかし、当社では変動スプレッドであるため、両建取引時においてもスプレッドの変動の影響を受けて損益が変動いたします。

そのため、両建取引時においてもスプレッドが大きく開いたときなどには、ロスカットが発生することがありますので、あらかじめご注意ください。

(3) 両建取引時の維持証拠金

両建取引時の維持証拠金は、売り・買いのポジションを比較してどちらが多い方を基準として算出いたします。

■ Application Program Interface (API) の利用に関して

API を利用して発注する場合、お客様が利用する商品の条件にあった発注をしてください。

各商品の条件に外れた発注をすることは、取引約款第16条第2項第2号及び第3号に該当し、第17条第1項の規定により当社はその口座を解約する権利を有します。

(平成23年7月10日改定)